評価項目	評価指標	具体的方策	評価基準				最終評価				
			4	3	2	1	評価	成果○と課題▲	改善策	委員からのコメント	
確かな学力の育成	各種学力調査で全国平均値を+5P超えることができる。 3年：全国学力学習状況調査 1年,2年：CRT 【国社数理英】	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員で本校の課題を共有化し、個に寄り添った学習支援をするために、「学習定着週間」や長期休業中の補充学習を行う。 国・数・英3教科の家庭学習ノートの取組を行い、授業で学んだことを繰り返し学習させたり、振り返りを行わせたりしていく。 各種テストにおいて、生徒実態を把握し、PDCAを行い授業改善につなげる。 	全国平均を上回る教科の割合	80%以上	60%以上	40%以上	40%以下	2	<p>○4月に行われた3年生の全国学力学習状況調査では、国語・数学ともに全国平均を大きく上回った。無解答率も全国平均と比べて低く、粘り強く取り組む姿勢が漬いている。</p> <p>▲12月に実施した1・2年生の標準学力調査の結果、全国平均を上回っていたものは、1・2年生の国語と2年生の数学のみで、他は全て下回っていた。</p> <p>○1.2年生の標準学力調査の平均通過率は全国平均が下回っているものが多かったが、記述式の問題の通過率は全国平均より上回っているものが多く、特に2年生数学においては、全国平均を18.6%も上回っている。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 各種学力調査の結果より、明確になった基礎的な内容の定着に各教科で工夫して取り組む。 本校の生徒の強みである書く活動は、「ヤングスポット」など計画に取組を続けていく。 定期テストの問題をより吟味しながら早めに作成をし、付けたい力を明確にして授業を組み立てるようにする。 	
豊かな心の育成	生徒の自尊感情を高める肯定的な回答を全校で80%以上にする(i-check「自分には良いところがあると思いますか」項目)	<p>○あらゆる教育活動において、生徒がポジティブに自己を捉えるよう、タイミングの良い肯定的評価を学校、保護者、地域が一体となって行う。</p> <p>○体験活動の意義を説明し、生徒に意欲を持たせる。</p>	i-checkの肯定的回答の割合	80%以上	70%～79%	60%～69%	60%未満	3	<p>自尊感情を高める肯定的回答 1年・・・61.9% 2年・・・70.3% 3年・・・84.5%</p> <p>○3年生のみ、肯定的評価が80%を超えている。 ○学年が上がるにつれて、肯定的評価の割合が着実に増えている。 ▲1年生の肯定的評価の割合が、61.9%ときわめて低い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 文化祭や体育祭など様々な行事を教師側から与えるのではなく、生徒たちが計画・運営できるように支え、より達成感を持たせるようにする。 学年ごとの行事の充実をはかり、1・2年生の自己肯定感の向上を目指す。 	
健やかな体	体力テストで、前年度の県平均を上回る	<p>○各自目標値を持って取り組ませる。</p> <p>○弱点補強を授業とリンクさせる。</p>	前年度の県平均を上回った項目の割合	70%以上	60%～69%	50%～59%	50%未満	1	<p>▲県平均を上回った項目は、男女とも8項目中3項目であった。(男女とも 上体起こし・長座体前屈・立ち幅跳び) ▲反復横跳びや20mシャトルランのような持久力系の項目が弱い。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 今年度2学期以降、昼休憩にグラウンドに出て遊ぶ生徒が増えてきた。継続して、外で遊び身体を動かす生徒が増えるような仕組み作りを行っていく。 	
信頼される学校	保護者アンケート項目「子どもの学校の現状について」の満足度が昨年度を上回る。	<p>○HPや学校だより等で、学校の取組や、やりきる生徒、関わりきる教職員の姿など、前向きな姿を発信する。</p> <p>○学校行事や日々の活動について生徒目線での記事を盛り込んだ親しみやすいホームページを20回以上更新する。</p>	①保護者アンケートの結果(肯定的回答)の割合	すべての学年が昨年度以上	一部の学年が昨年度以上、どの学年も昨年度未満はなし	昨年度と同じ	昨年度を上回るできない	3	<p>保護者アンケート「学校満足度」 1年・・・81.8% 2年・・・72.3% 3年・・・82.5%</p> <p>○1年と3年生については、昨年度の満足度(81.0%)を超えている。 ▲2年生は、昨年度より満足度が大きく下がっている。 ○ホームページの更新は1月末時点で36回記事の更新を行った。(昨年同時期28回)</p>	<ul style="list-style-type: none"> HPの記事の更新をICT支援員に依頼していたものを、校内の教員に担当を変え、よりタイムリーに記事をアップする。 行事や授業参観などで保護者の方が来校する機会を増やし、生徒のいきいきとした姿やそれを支える教職員の姿を見ていただけるようにする 	